

船越中学校便り

中 研 司

<http://www.funakoshi-j.edu.city.hiroshima.jp/>

大人として子供たちに与えるべきもの

夏休みが始まります。この季節になるとよくラジオやテレビなどで、お母さん方の冗談とも本気とも取れるような「夏休みになると、子供たちが家にいるので、食事の準備や宿題の面倒を見たり、何かとわずらわしい。」といった声が紹介されることがあります。ある意味、正直な感想なのかなと聞いていますが、この時期こそ、我が家の子育てのチャンスと捉え、お子さん方とのより深い交流をお願いしたいものだと考えています。

その際の参考になればと、本市教育長が、ある教育雑誌に寄稿したエッセイの一部を紹介させていただきます。

『……子育てにおいても、親から子へ、子から孫への伝統的な育児・子育て法の断絶を引き起こし、わがまま、自分勝手が横行しているようにも思える今日この頃である。家庭、地域社会の教育力低下がいわれる中、子どもたちは好きなことだけをして、ほんとうに体験しなければならないことを経験していないように思える。友だちと遊びに没頭し仲良くやっていくための社会生活の素地が形成されにくくなっている実態は、問題行動、不登校、ひいては学力とも無関係とはいえないのではないだろうか。……子どもたちの現状を見るにつけ、幼児期の子育てを思わざるをえない。愛情は惜しみなく注げ、欲望は満たすなかれ、ということ強く訴えたい。いわゆる第一反抗期といわれる三・四歳の頃は、理解力や自己統制力は未熟であるが、自立・独立への欲求が強く、この時期の指導がうまくいけば飛躍的な成長が見られるといわれている。幼児期は、自分の思い通りにいかないことに気づき自己中心性から脱却し、ルールの理解、適切な自己主張(抵抗・がまん)等、生物的存在から社会的存在へ移行する重要な時期である。

「子どもを不幸にする一番確実な方法は、いつでもなんでも手に入れられるようにしてやること。」(ルソー)

「モノを買い与える必要はない。親が子どもに買い与えるべきは、自己の欲望とどう付きあうかの知恵と、どんな境遇にあっても保ち得る誇りと自制心である。」(さかもと未明)……」

この内容は、主に幼児教育の重要性について述べてありますが、今の中学生についても多くの示唆に富んだ内容だと思います。

われわれは、常に子供たちのためをと思って考え、丁寧な教育を心がけていますが、その中には本来子供たち自身が自らの力で乗り越えていかなければならないことも多く含まれているのではないかと、われわれの取組みをみを見直さなければと思っています。

今年も合唱際が、盛り上がりました



本年度も、7月10日(木)安芸区民文化センターホールにおいて恒例の合唱際が、盛大に開催されました。

今年も多くの地域・保護者の方々においでいただき、生徒たちの練習の成果をご覧いただくことができ、生徒たちはもちろん、本校教職員一同、感謝いたしております。

特に、例年出演いただいています”岩滝童謡の会”の皆様やPTA有志の方々による合唱は、生徒たちのものとは違った大人

の合唱であり、生徒たちも感動的に聴いたのではないかと思います。

出演いただいた方々には、当日のみならず、当日までの練習についても貴重な時間を割いていただき、本当にありがとうございました。

子供たちの合唱も年を重ねるごとに上達し、しっかりと本校の伝統を受け継ぎ高めてくれていると感じています。学校としましても、この取組みを今後の教育活動に生かしていく覚悟です。今後とも本校教育活動へのご理解・ご支援をお願いいたします。



町内一斉清掃参加への再度のお願い

第14号の学校便りでもお願いしましたが、7月20日(日)に町内一斉清掃があります。

地域に支えられた学校です。生徒の参加については、学校でも指導を行っていきませんが、保護者の皆様にも、お子さんの参加について促していただくとともに、積極的に参加いただけますよう、お願いいたします。